

# 学びと育ちをつなぐ

令和3年3月  
高知県教育委員会発行

保幼小連携・接続推進シンポジウムを、2月1日に開催しました。第1部では、保幼小連携・接続に係る高知県の取組やモデル地域の実践発表を行いました。第2部では、文部科学省初等中等教育局 視学官の湯川秀樹先生と松蔭大学 教授の山下文一先生による講師対談（DVD視聴）と、横浜高等教育専門学校講師である吉田豊香先生をお招きしてのパネルディスカッションを行いました。参加者からは、「それぞれの地域や学校・園に合ったカリキュラムを作成し、工夫して取り組んでいることが分かった」等、各市町村の実践に活かすことができる内容だったという意見が多数ありました。本号では、シンポジウム当日の様子をお伝えします。

## 第1部〈高知県の取組について〉 ～質の高い教育・保育の実現に向けて～

幼保支援課からは、高知県の保幼小連携・接続の進捗状況として、文部科学省が示すステップ2からステップ3への移行段階であり、今後の取組として、地域全体でめざす子ども像に向けて組織的・計画的に取り組む体制を整えることや、教職員の連絡会や交流会の充実を図ること、保育者・小学校教員の資質・指導力のさらなる向上や評価を行う必要性について説明をしました。



- ステップ1 連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。
- ステップ2 年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。
- ステップ3 授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。
- ステップ4 接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。  
(平成27年4月28日教育課程企画特別部会資料より)



## 第1部〈モデル地域実践発表〉 「保幼小の接続から見えてきたもの」

田野町・越知町・黒潮町

本事業のモデル地域として取り組んできた田野町・越知町・黒潮町の実践発表が行われました。幼児期の育ちや学びを活かしたスタートカリキュラムの実践や、互惠性のある交流活動、コロナ禍で工夫された連絡会や合同研修会等について、それぞれの地域の特徴を活かした取組が報告されました。



## 第1部 参加者の方々の感想より

- ・実践成果等からも保幼小連携・接続の重要性を感じた。またコロナ禍の中でも、交流や接続を工夫して実践されており、参考になった。
- ・短期的な目標だけでなく0歳からの子どもの育ちを見通し、市町村としてめざす子ども像のために、それぞれの立場で見直すことの大切さについて考えることができた。
- ・自園・自校の連携・接続の取組がステップ2の段階なので、ステップ3の段階の実践が聞けて良かった。

## 第2部〈講師対談〉(DVD視聴)

「これからの保幼小接続の方向性」

コロナ禍のため、湯川先生と山下先生の講師対談がDVD視聴により行われました。保幼小連携・接続は新しい課題ではなく、幼児期の教育と小学校教育を互いに知ろうとすることから始まること。また、それぞれの教育の役割をしっかり果たし、「10の姿」を基にした子どもの具体的な姿を互いに理解し繋いでいくことが、これからの保幼小連携・接続で重要であるということが話されました。そして、取組を進めていくためには、保育者・教員等の皆さんが創造的であることが大切だということが提議されました。



## 第2部〈パネルディスカッション〉

「子どもの発達と学びをつなぐ」  
～接続期カリキュラム～

パネルディスカッションでは、高知市立江陽小学校・認定こども園丑之助学園と、津野町立精華小学校・幼保連携型認定こども園にじいろ園の先生方による取組発表が行われました。複数園から入学してくる校区の連携・接続の工夫や、互いの教育課程・指導方法を理解し、子ども理解を深めるために接続期カリキュラムをどのように活用しているか等について協議が行われました。また、園や学校だけでなく地域や保護者も共に連携して取り組む必要性についても、熱い議論が交わされました。



吉田豊香先生より

「考える子ども」・「自己発揮できる子ども」を育てるには、意図的・計画的なカリキュラムを踏まえて教育を行うことや、それに伴う具体的な教師の関わりや援助が必要であるということをお話いただきました。



## 第2部 参加者の方々の感想より

- ・ 接続は互いを知ることからスタートであるということから、小学校教育を知るとともに幼児教育を理解してもらうための工夫を考える必要性を感じた。(保育者)
- ・ 園は10の姿を見通した保育、小学校は10の姿を踏まえて園の育ちを引き継ぎ、積み上げていくということを再確認できた。(行政)
- ・ 小学校のスタートカリキュラムの取組や生活科の意義がよく分かり、子どもたちが安心して学校へ通えるような工夫が理解できた。(小学校教員)
- ・ 講師の講話から、幼児期に身に付けた力が発揮できるように専門性を高めることの大切さや、連携・接続のことだけでなく、生活科の充実についても考えさせられた。(小学校教員)